

要領様式第2号

出張報告届

令和6年11月15日

吹田市議会議長 様

会 派 名 参 政 党

代表者氏名 久保直子

出張者氏名 久保直子

下記のとおり出張したので届け出ます。



記

出張先	船橋市立法典小学校（千葉県船橋市藤原5-2-1）
期間	令和6年11月14日から11月14日まで 1日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	

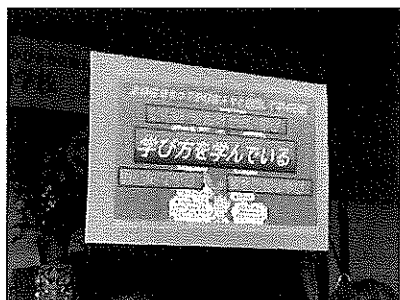
報告書「確かな学力の向上」公開研究会～令和6年度 船橋市教育研究会研究指定

参政党 吹田市議会議員 久保直子

研究主題

自ら学びに向かう児童の育成

～対話的な活動を通して学びに向かう授業の工夫～



令和6年11月14日(木)

会場 船橋市立法典小学校
(千葉県船橋市藤原5-2-1)

1. はじめに

教育で一番大切なことは、「主体的に学びに向かう」ということですが、今の日本の教育システムでは、自分の頭で考えない受け身的な態度が課題です。私は、公立の小学校の教育現場で長年勤務した経験があるため、根本的な教育改革が必要だとこれまで訴えてきましたが、自治体で大きく変える事は大変困難であるということもわかります。そんな環境下で、現場の教師は奮闘しているものであり、その現場を視察し、できる所から進めていきたいと思い学びに行かせて頂いた。視察先は、昨年度まで関西で教壇に立っていた知り合いの教師が赴任した先の小学校。関西と関東の違い、また、学級経営で著書を執筆され大変人気のある先生の学級経営からも学ばせて頂き、吹田市の教育に反映させたいと考えております。

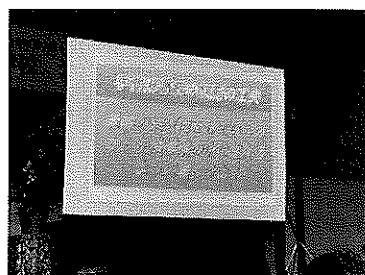
2. 研究主題について

(1) 自ら学びに向かうとは

「子供が学ぶ目的や必要感をもって、学習方法を選択したり、学習の自己調整をしたりしながら課題を追求していく姿」と捉えられていました。

(2) 対話的な活動とは

「向かい合って話すこと。相對して話すこと。2人の人がことばを交わすこと。」と広辞苑にはありますが、学習指導要領が示す学びの改革として、「主体的・対話的で深い学び」が挙げられています。研究主題として、そのポイントは①対話の相手は子供だけでなく、教職員、地域の人、先哲など幅広いものであること②自分と他者の意見や考え方を比較したり自分だけでは気付くことが難しい気づきを得たりしながら、考えを広げたり深めたりできるようにすることとされています。



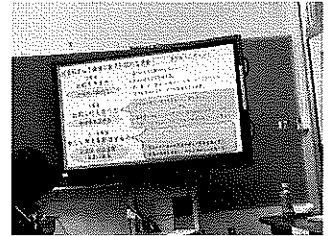
3、研究主題と研究授業（3年社会）の関わり

「消防署と消防団はちがうのか」について、本時までにとまとめた資料を使って話し合う場面で対話的な活動が取り入れられていました。その形式は、2人組の対話、教室内での自由対話、ロイロノートによる共有でした。

○研究授業の感想

なかなか児童から、役割の違いについての要点が出てこなかったため、授業者が「消防団はいらないの？」と問い、さらに児童が考えを深めるシーンが印象的でした。「消防団がなくなったらどうなるの？」「脇役とかお手伝いでいいの？」の問いに、「地域の実情に詳しい消防団ならではの役割」に児童が気付くまでに時間を要していましたが、授業者は辛抱強く児童に考える時間を与え、切り返した発問をしていました。児童が話し合い聞き合うクラス運営がしっかりととなされており、安心して学ぶ様子が素晴らしいと感じました。

一方で、地域の消防団の活躍を真近で見る経験や、消防団からの生の声を聞く経験を積ませる必要性を感じるとともに、デジタルツールの必要性を感じました。



3、おわりに

児童の実態アンケートを取る所から、本研究は取り組まれています。体育や図画工作は得意意識を持っているが、国語科・算数科の苦手意識は高学年になればなるほど強くなっている様です。この背景は、学習内容の量と難易度の高さによる諦めの気持ちやペーパーテストの客観的な数字の影響があると思われます。

はじめにも記しましたが、児童が主体的に学びに向かうために必要なものが、学校教育、授業の中で不十分なのではないでしょうか。本来、人間は主体的に生きたいと思い、そして行動できる力は備わっているものです。その思いと行動力を削ぎ落してしまったのは大人が作る社会環境全てなのではないでしょうか。幼少期に、「これ何？」と質問してきた時に、どれだけ周りが反応してきたのかも影響しているかもしれません。そもそも、一人ひとり、興味の幅も違うのに、平均的に学ばせようとする出発点が違うのではないかと思います。

しかし、学校教育現場では奮闘されている先生方がいて、それに応える子供達があり、既存の枠組みの中で公教育が為されているわけですが、いかに変化球で子供達の教育をより良いものにしていくかを今後も模索し、吹田市教育委員会に提案していきたいと考えています。令和7年度も引き続き研究を深めて参りたいと思います。

参政党 吹田市議会議員 久保直子